

FOR WOMEN IN SCIENCE



— The world needs science... Science needs women. —

若手女性科学者の育成を支援する、日本ロレアルの社会貢献活動

**2009 年度 第 4 回「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
受賞者 4 名(物質科学 2 名、生命科学 2 名)決定**

< 報道資料 >

2009 年 9 月 7 日

世界最大の化粧品会社ロレアルグループ(本社:パリ)の日本法人である日本ロレアル株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ピエール-レイヴ・アルゼル)は、**2009 年度 第 4 回「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」**の受賞者を、物質科学分野から 2 名、生命科学分野から 2 名決定し、本日 9 月 7 日、日本工業倶楽部会館(東京)で発表および授賞式を行いました。

「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」は、日本の若手女性科学者が、国内の教育・研究機関で研究活動を継続できるよう奨励することを目的として、2005 年 11 月、日本ロレアルが日本ユネスコ国内委員会との協力のもと、創設しました。対象者は、物質科学、生命科学の分野で、博士課程(後期課程)に在籍または、博士後期課程に進学する予定の女性科学者で、受賞者には、それぞれ賞状と奨学金 100 万円が贈られます。2008 年までに 12 名の女性科学者が受賞しています。

候補者の募集は、2008 年 11 月 17 日から 2009 年 2 月 28 日まで、全国の大学や研究機関に対して推薦を募りました。2009 年から新たに、選考委員会に白川英樹氏(筑波大学名誉教授、2000 年度ノーベル化学賞受賞)を始めとする有識者 5 名を迎え、研究内容、専門知識、着想力など日本の未来を担う女性科学者としての可能性を総合的に評価しました。

日本は、研究者に占める女性の割合は、13.0%と増加はしているものの、昨年に引き続き、欧米諸国と比べて最も低い割合となっています。2009 年に創立 100 周年を迎えたロレアルグループは、「より良い世界を」目指し、ロレアル-ユネスコ女性科学賞などの社会貢献活動を、さらにグローバル規模で積極的に取り組んでいきます。2009 年に新たに 17 カ国を加え、計 60 カ国にて国内賞を展開。日本においても、新しい選考委員会のもと、より多くの若い女性科学者が研究を継続できるよう、当奨励賞を主要な社会貢献活動として推し進めていきます。

今年の受賞者は以下の 4 名です。(詳細は、参考資料 1-5 を参照)

■物質科学

海老根 真琴(えびね・まこと) (28 歳) 東北大学大学院 理学研究科

研究分野 : 有機合成化学、天然物化学

研究内容 : 天然由来の新規薬剤開発を目指して: 海洋天然有機化合物ブレベナールの効率的化学合成

大串 裕子(おおぐし・ゆうこ) (26 歳) 九州大学大学院 工学府 物質プロセス工学専攻

研究分野 : 生物化学工学、生体材料工学

研究内容 : 再生医療の発展に貢献: 乳ガン患者のクオリティーオブライフ向上を目指した乳房再建のための脂肪組織体の構築

■生命科学

岩井 玲奈(いわい・れな) (28 歳) 東京大学大学院 医学系研究科 神経機能解明ユニット

研究分野 : 神経科学

研究内容 : 視覚発達過程の理解に貢献: 左右の眼特異的な神経回路の形成における視床の分化過程解析

富田 文菜(とみた・あやな) (29 歳) 東京工業大学 フロンティア研究センター

研究分野 : 光物性、構造生物学

研究内容 : 新薬開発への応用に期待: タンパク質の反応過程観測 — 一酸化炭素結合型ミオグロビンの光解離配位子輸送過程直接観測

2009 年度「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」 — 物質科学分野

えびね まこと
海老根 真琴



出身地: 福島県いわき市
生年月日: 1981 年 2 月 7 日 (28 歳)
出身大学: 東北大学大学院 生命科学研究科 生命構造化学分野
現 所属: 2009 年 4 月～ 東北大学大学院 理学研究科
研究分野: 有機合成化学、天然物化学
研 究 歴: 第 23 回有機合成化学若手研究者の仙台セミナー賞
(受賞歴、論文掲載) 平成 20 年度青葉理学会黒田チカ賞*
*東北大学大学院理学研究科及び生命科学研究科
博士後期課程に在籍する大学院女子学生の中から
理学において優れた研究業績をあげた学生に授与

<研究内容> 天然由来の新規薬剤開発を目指して: 海洋天然有機化合物プレベナールの効率的化学合成

自然界からは医薬品や染料、香料など多くの有用化学物質が発見され利用されてきた。ただし、これらの有用な化学物質の中には天然からごく微量しか得られないものも多く、人々の需要を満たすには人工的に作る必要がある。

本研究では、海洋微生物が生産する「プレベナール」と呼ばれる化学物質を、化学反応を駆使して効率的に人工合成する方法を開発した。この物質は、喘息などの気管支系疾患や、欧米で患者数が多いものの未だに有効な治療法が確立されていない非常に重篤な遺伝性疾患である嚢胞性線維症(特に肺や消化管が損傷を受ける)の治療薬の材料として期待されている。今回の結果により、薬理学研究や創薬研究への展開が可能となった。

現在は植物へと対象を替え、オジギソウやネムノキなど「動く植物」のメカニズム解明に向けた研究を、動きのリズムを司る配糖体に注目して行っている。

<女性研究者として…>

今は自分自身が研究者として未熟であるため、女性であることは極力考えないようにしている。まずは、自立した一研究者としての力を蓄えた上で、女性らしさを兼ね備えた振る舞いや仕事をして行きたい。